

# VirusScan for Mac 8.6.1 ユーザ ガイド – 付録

## 著作権

Copyright © 2008 McAfee, Inc. All Rights Reserved.

このマニュアルのいかなる部分も、McAfee, Inc またはその代理店または関連会社の書面による許可なしに、形態、方法を問わず、複写、送信、転載、検索システムへの保存、および他言語に翻訳することを禁じます。

## 商標

ActiveSecurity、アクティブセキュリティ、Entercept、Enterprise Secure Cast、エンタープライズセキュアキャスト、E-Policy Orchestrator、イーポリシー・オーケストレイター、GroupShield、グループシールド、IntruShield、McAfee、マカフィー、NetShield、ネットシールド、SpamKiller、VirusScan、WebShield、ウェブシールドは米国法人 McAfee, Inc. またはその関係会社の登録商標です。McAfee ブランドの製品は赤を基調としています。本書中のその他の登録商標及び商標はそれぞれその所有者に帰属します。

## ライセンス情報

### ライセンス条項

お客様へ:お客様がお買い求めになられたライセンスに従い、該当する契約書（許諾されたソフトウェアの使用につき一般条項を定めるものです、以下「本契約」といいます）をよくお読みください。どのような種類のライセンスを取得したか不明である場合は、販売およびその他関連のライセンス証書を参照するか、ソフトウェア パッケージに含まれている注文書または購入製品の一部として個別に受け取った文書（ブックレット、製品 CD のファイル、またはソフトウェア パッケージをダウンロードした Web サイトから入手できるファイル）を確認してください。本契約の規定に同意されない場合は、製品をインストールしないでください。この場合、弊社またはご購入元に速やかにご返品いただければ、所定の条件を満たすことによりご購入額全額をお返しいたします。

## 帰属

製品のリリース ノートを参照してください。

# 目次

VirusScan for Mac v8.6.1 の変更点.....	4
VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール.....	5
システム要件.....	5
標準インストール.....	5
コマンド ラインからのインストール（サイレント インストール）.....	6
アップグレード インストール.....	6
ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール.....	7
McAfee Agent パッケージと VirusScan パッケージの ePolicy Orchestrator	
server 3.6.1 へのチェックイン.....	7
McAfee Agent のインストール.....	8
VirusScan の配備.....	8
ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール.....	9
McAfee Agent パッケージと VirusScan パッケージの ePolicy Orchestrator	
server 4.0 へのチェックイン.....	9
McAfee Agent のインストール.....	9
VirusScan の配備.....	10
アンインストール.....	10
VirusScan と McAfee Agent のアンインストール.....	11
ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan のアンインストール.....	11
ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan のアンインストール.....	11
eUpdate サーバ設定のカスタマイズ.....	13
アップデートを取得するリポジトリのリスト.....	13
プロキシ設定.....	14
ePolicy Orchestrator の スケジュール設定.....	16
ePolicy Orchestrator3.6.1 の eUpdate タスク.....	16
ePolicy Orchestrator 4.0 の eUpdate タスク.....	17
ePolicy Orchestrator 管理モードと非管理モードの切り替え .....	18
Minimum Escalation Resource (MER) ツール.....	20

# VirusScan for Mac v8.6.1 の変更点

---

このガイドでは、VirusScan for Mac v8.6.1 で変更または追加された項目について説明します。このガイドに記載された変更は、既存の VirusScan for Mac 8.6 ユーザ ガイドに記載されている情報に優先します。

## 変更点:

- ・ VirusScan for Mac 8.6.1 インストール手順 – VirusScan for Mac 8.6.1 を McAfee Agent 4.0 と共にインストールする手順など、標準的なインストール手順です。
- ・ VirusScan for Mac 8.6.1 アンインストール手順 – VirusScan for Mac 8.6.1 をアンインストールする場合、McAfee Agent 4.0 も一緒にアンインストールする必要があります。
- ・ eUpdate サーバ設定 – McAfee FTP サーバとは別に、VirusScan for Mac 8.6.1 は、HTTP サーバやローカル リポジトリにアクセスして最新のエンジンと DAT をダウンロードできます。また、ePolicy Orchestrator 3.6.1 および 4.0 のリポジトリからも、最新エンジンや DAT をダウンロードできます。
- ・ ePolicy Orchestrator 3.6.1/4.0 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 の管理のしやすさ – ePolicy Orchestrator から VirusScan for Mac 8.6.1 を配備、インストールできます。また、VirusScan for Mac 8.6.1 用 Hotfixes およびパッチを ePolicy Orchestrator からインストールすることもできます。

## 追加機能:

- ・ Minimum Escalation Requirements (MER) ツールのサポート – VirusScan 8.6.1 に MER ツール機能が追加されました。VirusScan に問題が発生した場合にお客様が弊社にコンタクトする際、McAfee のテクニカル サポート担当エンジニアの役に立つシステム情報を含むレポートを生成します。
- ・ ePolicy Orchestrator 管理モードと非管理モードの切り替え – VirusScan for Mac 8.6.1 では、ePolicy Orchestrator 管理モードと非管理モードを切り替えることができます。詳しい手順は後述します。

# VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール

---

- ▶ システム要件
- ▶ 標準インストール
- ▶ コマンド ラインからのインストール (サイレント インストール)
- ▶ アップグレード インストール
- ▶ ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール
- ▶ ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール
- ▶ アンインストール

## システム要件

- ・ PowerPC または Intel ベースの Mac コンピュータ
- ・ Mac OS X Tiger (10.4.6 以降) または Mac OS X Leopard (10.5 以降) オペレーティング システム
- ・ 512 MB (以上) の RAM
- ・ 90 MB 以上の空きディスク容量

VirusScan は ePolicy Orchestrator バージョン 3.6.1、4.0 と統合されます。ただし、ePolicy Orchestrator を使用しない場合でも、スタンドアロン製品として VirusScan for Mac を使用することにご注意ください。

- ▶ [VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## 標準インストール

標準インストール手順では、VirusScan for Mac 8.6.1 を McAfee Agent 4.0 と共にインストールします。

**注意:** McAfee Agent 4.0 は、VirusScan for Mac 8.6.1 をインストールすると必ず一緒にインストールされます。

Non-Windows Agent (NWA) がご使用のコンピュータにインストールされている場合は、必ずアンインストールしてください。「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。

`/Library/NETAepoagt/cmduninst`

VirusScan for Mac 8.6.1 をインストールする前に NWA をアンインストールしなかった場合、インストール プロセスの最初に NWA をアンインストールするよう求める警告が表示されます。

**注意:** NWA をアンインストールするには管理者権限が必要です。

- 1 VirusScan.mpkg をダブルクリックします。「VirusScan for Mac インストーラへようこそ」スクリーンが表示されます。
- 2 「続ける」をクリックします。
- 3 VirusScan for Mac 8.6.1 リリース ノートに目を通して、「続ける」をクリックします。
- 4 ドロップダウンから適切な言語を選択してソフトウェア使用許諾契約に目を通した後、「続ける」をクリックします。
- 5 ソフトウェア使用許諾契約に同意する場合は「同意する」をクリックします。  
**注意:** 「同意しない」をクリックすると、インストールを続行できません。
- 6 VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール先を選択して、「続ける」をクリックします。
- 7 「インストール」をクリックして、インストールを続けます。「認証する」ダイアログボックスが表示されます。
- 8 ユーザ名と管理者用パスワードを入力して、「OK」をクリックします。インストールが完了すると、メッセージが表示されます。
- 9 「閉じる」をクリックします。

▶ [VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## コマンド ラインからのインストール (サイレント インストール)

- 1 製品 CD または弊社 Web サイトからダウンロードしたインストール .ZIP ファイルで VirusScan.mpkg ファイルを検索し、一時フォルダに保存します。
- 2 「Terminal」ウィンドウを開き、作業フォルダを VirusScan.mpkg ファイルが配置されているフォルダに変更します。
- 3 「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。  
`sudo installer -pkg VirusScan.mpkg -target /`
- 4 プロンプトが表示されたらシステム パスワードを入力します。インストールが完了すると、メッセージが表示されます。

▶ [VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## アップグレード インストール

VirusScan の以前のバージョン (8.5 や 8.6) から VirusScan for Mac v8.6.1 にアップグレードできます。アップグレード後、以前のバージョンから現在のバージョン (v8.6.1) に環境設定が移行されます。

▶ [VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール

ePolicy Orchestrator ソフトウェアを使用すると、弊社のウイルス対策製品を一元管理することができます。企業環境で、ウイルス対策ポリシーの管理、ウイルス イベントとウイルス活動のレポートの表示を行うことが可能になります。ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用すると、ネットワークを介して他のシステム上の McAfee Agent 4.0 と VirusScan 8.6.1 を設定できます。各システムを個別に設定する必要はありません。

ここでの情報を効果的に活用するには、ePolicy Orchestrator 3.6.1 について把握しておく必要があります。詳しくは ePolicy Orchestrator 製品ガイドをご覧ください。

- ▶ [VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)
- ▶ [McAfee Agent パッケージと VirusScan パッケージの ePolicy Orchestrator server 3.6.1 へのチェックイン](#)
- ▶ [McAfee Agent のインストール](#)
- ▶ [VirusScan の配備](#)

## McAfee Agent パッケージと VirusScan パッケージの ePolicy Orchestrator server 3.6.1 へのチェックイン

「リポジトリ」ページから、Agent パッケージと VirusScan パッケージをチェックインできます。リポジトリは、ePolicy Orchestrator サーバにあるすべての McAfee アップデートの中心となる場所です。ここでは、ユーザ固有のアップデートを McAfee サイトやユーザ定義のソース サイトから取得します。

- 1 Agent の PkgCatalog.z パッケージをご使用の ePolicy Orchestrator コンピュータに作成した一時フォルダに抽出します。

**注意:** PkgCatalog.z は、「ePO Server Components」にある MSA-MAC 4.0.0 <ビルド番号 パッケージ番号 リリース タイプ>.zip から抽出できます。

- 2 「リポジトリ」、「パッケージのチェックイン」の順にクリックします。「パッケージのチェックイン」ウィザードが表示されます。
- 3 「次へ」をクリックします。
- 4 「製品またはアップデート」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 5 「参照」をクリックして McAfee Agent の PkgCatalog.z パッケージ（一時フォルダにあります）を選択した後、「次へ」をクリックします。「パッケージのチェックイン」ウィザードには「製品名」、「製品バージョン」、「パッケージ タイプ」、「言語」が表示されます。
- 6 「終了」をクリックして Agent パッケージ ファイルをチェックインします。
- 7 チェックイン プロセスが完了したら、「閉じる」をクリックします。

**注意:** 同じ手順を繰り返して、VirusScan パッケージの PkgCatalog.z ファイルをチェックインします。PkgCatalog.z ファイルは、「ePO Component」の「ePO Server Components」にある VirusScanforMac-8.6.1-<ビルド番号>-EP0.zip から抽出できます。

- ▶ [ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## McAfee Agent のインストール

- 1 VirusScan.mpkg をダブルクリックして Install McAfee Agent 4.0 をインストールします。
- 2 ePolicy Orchestrator 3.6.1 サーバ上の <ePO インストール ディレクトリ>\DB に移動します。
- 3 SiteList.xml ファイル (<ePO インストール ディレクトリ>\DB にある) と srpubkey.bin ファイル (<ePO インストール ディレクトリ>\DB\Keystore にある) を、ePO3.6.1\_keys フォルダにコピーします。
- 4 「ePO3.6.1\_keys」フォルダをクライアント コンピュータにコピーします。
- 5 クライアント コンピュータで「Terminal」ウィンドウを開いて以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。  
`/Library/McAfee/cma/bin/msaconfig -m -d <「ePO3.6.1_keys」フォルダのパス>`
- 6 「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力して、エージェント サービスを再起動します。  
`SystemStarter restart cma`
- 7 Enter キーを押します。

▶ ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール

## VirusScan の配備

McAfee ePolicy Orchestrator 管理ソフトウェアのバージョン 3.6.1 を使用して、VirusScan を配備することができます。ePolicy Orchestrator 3.6.1 は、総合的な製品配備機能を提供しています。ここでの情報を効果的に活用するには、ePolicy Orchestrator 3.6.1 について把握しておく必要があります。詳しくは ePolicy Orchestrator 製品ガイドをご覧ください。

- 1 適切なサイト、グループ、またはシステムを選択して「タスク」タブをクリックした後、ペイン内で右クリックして、最後に「タスクのスケジュール」をクリックします。「タスクのスケジュール」ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 新規タスク名を入力します。「ソフトウェア」で「ePO Agent for Mac」、「タスクの種類」で「製品配備」を選択した後「OK」をクリックします。
- 3 新規タスクをダブルクリックします。
- 4 「タスク」タブの「スケジュールの設定」の下にある「継承」の選択を解除します。「有効（スケジュールしたタスクが指定した時刻に実行されます）」オプションを選択します。
- 5 「設定」をクリックして、「継承」の選択を解除します。一覧にある製品から「VirusScan for Mac 8.6.1」に対して「インストール」を選択します。「ポリシーの施行間隔ごとにタスクを実行」オプションの選択を解除し、「OK」をクリックします。
- 6 「スケジュール」タブをクリックし、「継承」の選択を解除して、タスクのスケジュール（即時実行、適宜実行）を設定します。
- 7 「適用」をクリックした後「OK」をクリックします。
- 8 エージェント ウェークアップ コールを送信します。

▶ ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール



## ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール

ePolicy Orchestrator 4.0 により、ご使用のセキュリティ製品とその製品を使用するシステムに対して、ポリシーの一元化した管理と施行をする、拡張が容易なプラットフォームが使用できます。この一元管理を通して、包括的なレポート機能や、製品配備機能も使用することができます。

McAfee ePolicy Orchestrator 管理ソフトウェア バージョン 4.0 を使用して、McAfee Agent 4.0 と VirusScan 8.6.1 を設定できます。ここでの情報を効果的に活用するには、ePolicy Orchestrator 4.0 について把握しておく必要があります。詳しくは ePolicy Orchestrator 製品ガイドをご覧ください。

- ▶ [VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)
- ▶ [McAfee Agent パッケージと VirusScan パッケージの ePolicy Orchestrator server 4.0 へのチェックイン](#)
- ▶ [McAfee Agent のインストール](#)
- ▶ [VirusScan の配備](#)

## McAfee Agent パッケージと VirusScan パッケージの ePolicy Orchestrator server 4.0 へのチェックイン

「マスター リポジトリ」ページから、Agent パッケージと VirusScan パッケージをチェックインできます。マスター リポジトリは、ePolicy Orchestrator サーバにあるすべての McAfee アップデートの中心となる場所です。ここでは、ユーザ固有のアップデートを McAfee サイトやユーザ定義のソース サイトから取得します。

- 1 管理者用アカウントを使用して、対象の ePolicy Orchestrator サーバにログオンします。
- 2 「ソフトウェア」、「パッケージのチェックイン」の順にクリックします。「パッケージのチェックイン」ページが開きます。
- 3 「パッケージ タイプ」に「製品またはアップデート (.ZIP)」を選択します。「ファイル パス」を参照して MSA-MAC 4.0.0 <ビルド番号 パッケージ番号 リリース タイプ>.zip ファイルを探し、チェックインします（「ePO Server Components」フォルダにあります）。
- 4 「次へ」をクリックします。パッケージ情報が記載された「パッケージ オプション」ページが表示されます。
- 5 「ブランチ」に「最新」を選択します。
- 6 「保存」をクリックします。

**注意：** 同じ手順を繰り返して、VirusScan パッケージの VirusScanforMac-8.6.1-<ビルド番号>-EP0.zip（「ePO Server Components」フォルダにあります）をチェックインします。

- ▶ [ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## McAfee Agent のインストール

McAfee Agent パッケージを ePolicy Orchestrator サーバ 4.0 にチェックインした後、McAfee Agent 4.0 をクライアント コンピュータに手動でインストールする必要があります。

- 1 <ePO インストール ディレクトリ>%DB%Software%Current%EPOAGENT3700MACX%Install%0409 から install.sh ファイルをクライアント コンピュータにコピーします。
- 2 「Terminal」ウィンドウに `install.sh -i` と入力した後 Enter キーを押して、エージェントを新規インストールします。  
エージェントをアップグレードするには、「Terminal」ウィンドウに `install.sh -u` と入力した後 Enter キーを押します。

**注意:** ePolicy Orchestrator サーバに McAfee Agent パッケージがチェックインされると `install.sh` ファイルが自動的に作成されます。

- ▶ [ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## VirusScan の配備

ここでは、McAfee ePolicy Orchestrator 管理ソフトウェアのバージョン 4.0 を使用して、VirusScan を配備する方法について説明します。ePolicy Orchestrator 4.0 は、総合的な製品配備機能を提供しています。ここでの情報を効果的に活用するには、ePolicy Orchestrator 4.0 について把握しておく必要があります。詳しくは ePolicy Orchestrator 製品ガイドをご覧ください。

- 1 「システム」をクリックして必要なシステムを選択した後、「クライアント タスク」タブ、「新規タスク」の順にクリックします。「クライアント タスク ビルダ」ページが開きます。
- 2 「説明」に「名前」、「注記」（必要に応じて）を入力した後、「タイプ」に「製品配備 (McAfee Agent)」を選択し、最後に「次へ」をクリックします。
- 3 「設定」で「対象プラットフォーム」に「Mac」、「製品とコンポーネント」に「VirusScan for Mac 8.6.1」、「アクション」に「インストール」、そして適切な「言語」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 タスクを実行するタイミングを設定した後「次へ」をクリックすると、タスクのサマリが表示されます。
- 5 「保存」をクリックします。
- 6 エージェント ウェークアップ コールを送信します。

**注意:** アップデート タスクの作成、設定、スケジュール、ePolicy Orchestrator を介したオンデマンド タスクやオンアクセス タスクについての情報は、ePolicy Orchestrator 製品ガイドをご覧ください。

- ▶ [ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)

## アンインストール

- ▶ [VirusScan for Mac 8.6.1 のインストール](#)
- ▶ [VirusScan と McAfee Agent のアンインストール](#)
- ▶ [ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan のアンインストール](#)
- ▶ [ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan のアンインストール](#)

## VirusScan と McAfee Agent のアンインストール

VirusScan をアンインストールする方法については、VirusScan for Mac 8.6 ユーザ ガイドをご覧ください。VirusScan 8.6.1 をアンインストールする場合、McAfee Agent 4.0 も同時にアンインストールする必要があります。

McAfee Agent 4.0 をアンインストールする方法

- 1 「Terminal」ウィンドウを開きます。
- 2 以下のコマンドを入力して、Enter キーを押します。  
`/Library/McAfee/cma/uninstall.sh`

▶ アンインストール

## ePolicy Orchestrator 3.6.1 を使用した VirusScan のアンインストール

- 1 適切なサイト、グループ、またはシステムを選択して「タスク」タブをクリックした後、ペイン内で右クリックして、最後に「タスクのスケジュール」をクリックします。「タスクのスケジュール」ダイアログ ボックスが開きます。
- 2 新規タスク名を入力します。「ソフトウェア」で「ePO Agent for Mac」、「タスクの種類」で「製品配備」を選択した後「OK」をクリックします。
- 3 新規タスクをダブルクリックします。
- 4 「タスク」タブの「スケジュールの設定」の下にある「継承」の選択を解除します。「有効（スケジュールしたタスクが指定した時刻に実行されます）」オプションを選択します。
- 5 「設定」をクリックして、「継承」の選択を解除します。一覧にある製品から「VirusScan for Mac 8.6.1」に対して「削除」を選択します。「ポリシーの施行間隔ごとにタスクを実行」オプションの選択を解除し、「OK」をクリックします。
- 6 「スケジュール」タブをクリックし、「継承」の選択を解除して、タスクのスケジュール（即時実行、適宜実行）を設定します。
- 7 「適用」をクリックした後「OK」をクリックします。
- 8 エージェント ウェークアップ コールを送信します。

▶ アンインストール

## ePolicy Orchestrator 4.0 を使用した VirusScan のアンインストール

- 1 「システム」をクリックして必要なシステムを選択した後、「クライアント タスク」タブ、「新規タスク」の順にクリックします。「クライアント タスク ビルダ」ページが開きます。
- 2 「説明」に「名前」、「注記」（必要に応じて）を入力した後、「タイプ」に「製品配備（McAfee Agent）」を選択し、最後に「次へ」をクリックします。
- 3 「設定」で「対象プラットフォーム」に「Mac」、「製品とコンポーネント」に「VirusScan for Mac 8.6.1」、「アクション」に「削除」、そして適切な「言語」を選択し、「次へ」をクリックします。
- 4 タスクを実行するタイミングを設定した後「次へ」をクリックすると、タスクのサマリが表示されます。
- 5 「保存」をクリックします。

6 エージェント ウェークアップ コールを送信します。

▶ [アンインストール](#)

## eUpdate サーバ設定のカスタマイズ

VirusScan for Mac 8.6.1 は McAfee FTP サーバ、HTTP サーバ、およびローカル リポジトリにアクセスして、最新の DAT ファイルをダウンロードするよう設定されています。VirusScan をインストールすると、インターネットに接続している間に VirusScan は自動的に設定した FTP サーバ、HTTP サーバ、およびローカル リポジトリに接続し、DAT ファイルをダウンロードしてアップデートします。

プロキシ サーバを使用してインターネットに接続し、パッケージを取得する場合、VirusScan の「プロキシ設定」機能を使用できます。

- ▶ アップデートを取得するリポジトリのリスト
- ▶ プロキシ設定

## アップデートを取得するリポジトリのリスト

ソフトウェアのリポジトリは、ストレージの場所を示します。そこからソフトウェアのパッケージやアップデートを取得して、コンピュータにインストールできます。リポジトリのリストには、コンピュータがリポジトリの選択やアップデートの取得に使用する、リポジトリの場所とネットワーク認証情報が記載されています。

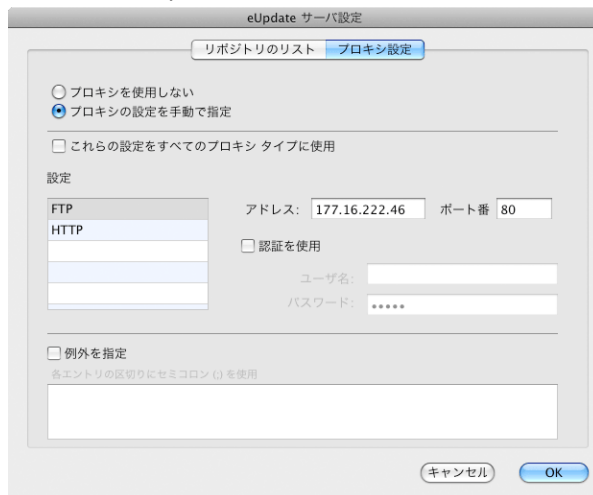


- 1 VirusScan コンソールを開きます。
- 2 ツール バーで「環境設定」をクリックして、「環境設定」ダイアログ ボックスを表示します。
- 3 環境設定を変更するには「ロック」をクリックします。「認証」ダイアログ ボックスが表示されます。ユーザ名と管理者用パスワードを入力して「OK」をクリックします。
- 4 「高度なオプション」をクリックして、高度な環境設定を表示します。
- 5 「eUpdate サーバの設定をカスタマイズ」を選択してから「カスタマイズ」をクリックします。「eUpdate サーバ設定」ダイアログ ボックスが表示されます。

- 6 「リポジトリのリスト」タブをクリックします。
  - 7 「リポジトリ名」では、次の記号が使用できます。
    - + : 新規リポジトリの追加ユーザ インターフェースで「+」をクリックして、新規リポジトリの名前を入力します。
    - : 既存のリポジトリの削除リポジトリを選択して、ユーザ インターフェースの「-」をクリックするか、キーボードの Delete キーを押します。
    - ^ v : リポジトリの優先順位付けリポジトリをドラッグするだけで、優先順位を変更できます。
  - 8 「リポジトリ タイプ」に「FTP」、「HTTP」、または「ローカル」を選択します。
  - 9 リポジトリの「リポジトリの URL」、「ポート番号」、「ユーザ名」、「パスワード」を指定します。
  - 10 「OK」をクリックします。
- ▶ [eUpdate サーバ設定のカスタマイズ](#)

## プロキシ設定

- 1 VirusScan コンソールを開きます。
- 2 ツール バーで「環境設定」をクリックして、「環境設定」ダイアログ ボックスを表示します。
- 3 環境設定を変更するには「ロック」をクリックします。「認証する」ダイアログ ボックスが表示されます。ユーザ名と管理者用パスワードを入力して、「OK」をクリックします。
- 4 「高度なオプション」をクリックして、高度な環境設定を表示します。
- 5 「eUpdate サーバの設定をカスタマイズ」を選択してから「カスタマイズ」をクリックします。「eUpdate サーバ設定」ダイアログ ボックスが表示されます。



- 6 「プロキシ設定」タブをクリックします。

**注意:** インターネット接続にプロキシを使用しない場合、「プロキシを使用しない」をクリックします。
- 7 プロキシを使用する場合、「プロキシの設定を手動で指定」をクリックします。

- 8 すべてのプロキシ タイプに同じ IP アドレスとポート番号を指定する場合、「これらの設定をすべてのプロキシ タイプに使用」を選択します。
- 9 必要に応じて「FTP」または「HTTP」をクリックします。選択した HTTP または FTP サーバの「IP アドレス」と「ポート番号」を入力します、
- 10 FTP、HTTP、またはローカル リポジトリ にユーザ名やパスワードを指定する場合は、必要に応じて「認証を使用」を選択したり選択解除したりします。
- 11 特定のドメインのプロキシ サーバを回避するには、「例外を指定」を選択します。
- 12 「OK」をクリックします。

▶ [eUpdate サーバ設定のカスタマイズ](#)

## ePolicy Orchestrator の スケジュール設定

---

VirusScan のウイルス スキャンでは、DAT ファイルとエンジン ファイルの情報に基づいてウイルスの検知が行われます。次々と出現する新しいウイルスへの対策機能を提供するため、弊社では新しい DAT ファイルを定期的にリリースしています。新しいウイルスに対処できるよう、ePolicy Orchestrator versions 3.6.1 や 4.0 を使用して最新のエンジンと DAT ファイルのアップデート スケジュールを設定できます。

- ▶ [ePolicy Orchestrator 3.6.1 の eUpdate タスク](#)
- ▶ [ePolicy Orchestrator 4.0 の eUpdate タスク](#)

### ePolicy Orchestrator 3.6.1 の eUpdate タスク

VirusScan は、ウイルス対策定義 (DAT) とウイルス スキャン エンジンが最新の状態でなければ、十分な対策を行うことはできません。eUpdate タスクを介して、定期的にエンジンと DAT ファイルをアップデートしてください。

- 1 ePolicy Orchestrator 3.6.1 サーバに管理者としてログオンします。
- 2 適切なサイト、グループ、またはシステムを選択して「タスク」タブをクリックします。
- 3 ペイン内で右クリックして、「タスクのスケジュール」をクリックします。「タスクのスケジュール」ダイアログ ボックスが開きます。
- 4 「新規タスク名」に名前を入力します。
- 5 「タスクの種類」に「ePO Agent for MAC のアップデート」を選択して、「OK」をクリックします。
- 6 タスクをダブルクリックします。「ePolicy Orchestrator スケジューラ」ダイアログ ボックスが開きます。
- 7 「設定」をクリックします。「タスクの設定」ダイアログ ボックスが表示されます。
- 8 「継承」の選択を解除します。
- 9 必要に応じて「すべてのコンポーネントをアップデートする」、または「次のコンポーネントのみをアップデートする」を選択します。  
**注意:** このタスクでは、「Extra.DAT」、「MacEngine」、「DAT」のアップデートが選択できます。
- 10 「OK」をクリックします。「ePolicy Orchestrator スケジューラ」ダイアログ ボックスが再び開きます。
- 11 「タスク」タブの「スケジュールの設定」の下にある「継承」の選択を解除します。「有効 (スケジュール タスクが指定した時刻に実行されます)」オプションを選択します。
- 12 「スケジュール」タブをクリックして、タスクのスケジュール (即時実行、適宜実行) を設定します。
- 13 「適用」をクリックした後「OK」をクリックします。
- 14 エージェント ウェークアップ コールを送信します。



▶ ePolicy Orchestrator の スケジュール設定

## ePolicy Orchestrator 4.0 の eUpdate タスク

- 1 ePolicy Orchestrator 4.0 サーバに管理者としてログオンします。
- 2 「システム」、「システム ツリー」を順にクリックし、対象のサイト、グループ、またはシステムを 1 つ選択します。
- 3 「クライアント タスク」タブ、「新規タスク」の順にクリックします。「クライアント タスク ビルダ」ページが開きます。
- 4 「説明」で、作成する eUpdate タスクの「名前」と「注記」を（必要に応じて）入力します。
- 5 タスクの「種類」に「アップデート (McAfee Agent)」を選択して、「次へ」をクリックします。
- 6 「設定」で、「パッケージ タイプ」に「すべてのパッケージ」または「選択されたパッケージ」（必要に応じて）を選択した後、「次へ」をクリックします。
- 7 タスクを実行するタイミングを設定した後「次へ」をクリックすると、タスクのサマリが表示されます。
- 8 「保存」をクリックします。
- 9 エージェント ウェークアップ コールを送信します。

▶ ePolicy Orchestrator の スケジュール設定

# ePolicy Orchestrator 管理モードと非管理モードの切り替え

---

**注意:** 異なるモードに切り替えるには管理者権限が必要です。

## VirusScan を非管理モードから ePolicy Orchestrator 4.0 管理モードに切り替える方法

- 1 ePolicy Orchestrator 4.0 サーバ上の <ePO インストール ディレクトリ>%DB%Software%Current%EPOAGENT3700MACX%Install%0409 に移動します。
- 2 SiteList.xml、reqseckey.bin、srpubkey.bin ファイルを「eP04\_keys」フォルダにコピーします。
- 3 「eP04\_keys」フォルダをクライアント コンピュータにコピーします。
- 4 クライアント コンピュータで「Terminal」ウィンドウを開いて以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。  
`/Library/McAfee/cma/bin/msaconfig -m -d <「eP04_keys」フォルダのパス>`
- 5 「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力して、エージェント サービスを再起動します。  
`SystemStarter restart cma`
- 6 Enter キーを押します。

## VirusScan を非管理モードから ePolicy Orchestrator 3.6.1 管理モードに切り替える方法

- 1 ePolicy Orchestrator 3.6.1 サーバ上の <ePO インストール ディレクトリ>%DB に移動します。
- 2 SiteList.xml ファイル (<ePO インストール ディレクトリ>%DB にある) と srpubkey.bin ファイル (<ePO インストール ディレクトリ>%DB%Keystore にある) を、eP03.6.1\_keys フォルダにコピーします。
- 3 「eP03.6.1\_keys」フォルダをクライアント コンピュータにコピーします。
- 4 クライアント コンピュータで「Terminal」ウィンドウを開いて以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。  
`/Library/McAfee/cma/bin/msaconfig -m -d <「eP03.6.1_keys」フォルダのパス>`
- 5 「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力して、エージェント サービスを再起動します。  
`SystemStarter restart cma`
- 6 Enter キーを押します。

## VirusScan を管理モードから ePolicy Orchestrator 3.6.1/4.0 非管理モードに切り替える方法

- 1 クライアント コンピュータで「Terminal」ウィンドウを開いて以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。  
`/Library/McAfee/cma/bin/msaconfig -u`

- 2 「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力して、エージェント サービスを再起動します。  
`SystemStarter restart cma`
- 3 Enter キーを押します。

## 2 台の ePolicy Orchestrator 3.6.1 サーバ間でのエージェント通信を切り替える方法

- 1 ePolicy Orchestrator 3.6.1 サーバ上の <eP0 インストール ディレクトリ>%DB に移動します。
- 2 SiteList.xml ファイル (<eP0 インストール ディレクトリ>%DB にある) と srpubkey.bin ファイル (<eP0 インストール ディレクトリ>%DB%Keystore にある) を、eP03.6.1\_keys フォルダにコピーします。
- 3 「eP03.6.1\_keys」フォルダをクライアント コンピュータにコピーします。
- 4 クライアント コンピュータで「Terminal」ウィンドウを開いて以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。  
`/Library/McAfee/cma/bin/msaconfig -m -d <「eP03.6.1_keys」フォルダのパス>`
- 5 「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力して、エージェント サービスを再起動します。  
`SystemStarter restart cma`
- 6 Enter キーを押します。

## 2 台の ePolicy Orchestrator 4.0 サーバ間でのエージェント通信を切り替える方法

- 1 ePolicy Orchestrator 4.0 サーバ上の <eP0 インストール ディレクトリ>%DB%Software%Current%EPOAGENT3700MACX%Install%0409 に移動します。
- 2 SiteList.xml、reqseckey.bin、srpubkey.bin ファイルを、2 台目の ePolicy Orchestrator サーバから「eP04\_keys」フォルダにコピーします。
- 3 「eP04\_keys」フォルダをクライアント コンピュータにコピーします。
- 4 クライアント コンピュータで「Terminal」ウィンドウを開いて以下のコマンドを入力した後、Enter キーを押します。  
`/Library/McAfee/cma/bin/msaconfig -m -d <「eP04_keys」フォルダのパス>`
- 5 「Terminal」ウィンドウで以下のコマンドを入力して、エージェント サービスを再起動します。  
`SystemStarter restart cma`
- 6 Enter キーを押します。

## Minimum Escalation Resource (MER) ツール

---

VirusScan 8.6.1 では MER ツール機能が追加されました。

ディレクトリを `/usr/local/vscanx` に変更して、`./VSMacMERTool` または `/VSMacMERTool` `-help` と入力した後 Enter キーを押すと、MER ツールへのアクセスに使用できるコマンドのサポートが入手できます。

`./VSMacMERTool -log <ファイル名>` オプションも入手できます。「Terminal」ウィンドウでこのコマンドを入力した後、Enter キーを押します。

このコマンドは、VirusScan に問題が発生した場合にお客様が弊社にコンタクトする際、McAfee のテクニカル サポート担当エンジニアの役に立つ以下の情報についての統括的なレポートを生成します。

- ・ システム情報（カーネルのバージョン、稼動時間、カーネルの状態、最後にログインしたユーザ名）
- ・ インストールされたアプリケーションおよびパッケージのリスト
- ・ ファイル システム情報
- ・ 仮想メモリ情報
- ・ ロードされたカーネル拡張のリスト
- ・ エクスポートされた環境変数
- ・ ネットワーク インターフェースのリスト
- ・ 経路指定テーブル情報
- ・ アプリケーションによって開いているファイルのリスト
- ・ 実行中プロセスのリスト
- ・ システム プロファイラのアウトプット
- ・ VirusScan の詳細、インストールされたファイル、環境設定、VirusScan に関連するプロセスのステータス、スケジュールしたタスク、クラッシュ ログ（ある場合）
- ・ McAfee Agent 4.0 の詳細、SiteList、ログ

レポート（zip 形式）は、指定されたファイル名でユーザのホーム ディレクトリに作成されます。

# 索引

## E

eUpdate サーバ設定 [13](#)  
eUpdate タスクのスケジュール  
    eP0 3.6.1 を使用 [16](#)  
    eP0 4.0 を使用 [17](#)

## M

MER ツール [20](#)

## V

VirusScan 8.6.1  
    eP0 3.6.1 を使用したインストール [7](#)

VirusScan 8.6.1 (続き)

    eP0 4.0 を使用したインストール [9](#)  
    アップグレード インストール [6](#)  
    アンインストール [11](#)  
    サイレント インストール [6](#)  
    システム要件 [5](#)  
    標準インストール [5](#)

## ふ

プロキシ設定 [14](#)

## り

リポジトリのリスト [13](#)

